第１回（仮称）第３次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会議事録

- 開催日時　　平成１９年８月２０日（月）午後２時～３時５０分
- 開催場所　　１３Ａ会議室
- 出席委員　　１４名（別紙のとおり）
- 会議の公開・非公開の別　　公開
- 傍聴者　　０名
- 議事

(1) 報告事項

これまでの宇都宮市の生涯学習推進の取り組みについて

⇒報告資料に基づき，これまでの本市の取り組みや意識調査の結果等を説明し，意見交換した。

会議の公開について

⇒本懇談会会議の公開について事務局説明し，了承。

(2) 協議事項

宇都宮市の生涯学習の現状と課題について

⇒協議資料について説明し，意見交換した。

(3) その他

- 発言の要旨

(1) これまでの宇都宮市の生涯学習推進の取り組みについて

《事務局説明》

宇都宮市の生涯学習の環境は，生涯学習センターを中心に学習環境は整ってきているという判断をしている。さらに中核都市として学習機関も集積しており，民間事業も含め，学習機会が提供されている。

市全体として人づくりを進めており，生涯学習課でも親学など新しい取組みを進めているが，計画的に進めていく方向にはなっていないので，今後は生涯学習は今までの学習支援から転換して，人づくりという観点から見直していくことが必要と考えている。

廣瀬会長	宇都宮市の生涯学習は平成２年度から計画的に推進し，ある程度基盤は整備されたという認識。市としてはこのように考えているが，市民の実感としてみなさんどうか。
伊藤（昭）委員	たしかに生涯学習センターなど施設はけっこうある。しかし，施設の数より，それをどの程度の割合の市民が活用しているかという統計が必要なのではないか。アンケートの結果では一見生涯学習に関する認識はあがっているように見えるが，平成 18 年度から比べて無関心層，つまりアンケートが送られてきても答えない層がだんだん増えてきている。実際は限られた人しか施設を利用していないのではないだろうか。施設の活用・関心の統計の取り方

をもう少し工夫したほうがよい。むしろ行政が独りよがりにいい解釈をするのはまずいのではないだろうか。

大塚委員　施設の方はやはり充実してきていると思う。私も子供が生まれてからは利用する機会があり，１ヶ月に１回か２回は利用しているが，どこに行っても同じような講師で，内容も同じような講座が多く，違うことを学びたかったのに残念だと思う事がある。教える人への教育がもう少しあったほうがいいと思っている。

廣瀬会長　確かに無関心層はいて，似たような講座は多い。これからは施設整備の点から，講座の内容という次の段階にきているのだろう。

松江委員　確かに図書館やコミュニティセンターなどは，興味がない人にとっては全く興味がない。私は図書館をよく利用する。行くたびに混んでいるのだが，知り合いの中には図書館の場所も知らない人もいる。今度新しい図書館ができるが，期待している。コミュニティセンターでも温度差は激しく，地域活動をしていると訪れる度に必ず同じ人に会う。ご近所づきあいが低下している気はする。家庭の教育力とか問題になっているが，各家庭の考え方でずいぶん変わってしまう。

廣瀬会長　図書館でなかなか本が借りられない，混んでいて入れないのは実はいい状態。子どもは小さいときから親に連れていかれると，図書館に通う習慣ができ，大人になってからもずっと行き続ける。そういう意味でも家庭の教育力は次の課題として注目しておかなければいけない。

櫛渕委員　友人から聞いた話だが，生涯学習センターの利用を１人１種目などと決めてしまうと，勉強する人が減ってしまうかもしれないが，普段，北公民館で学んでいるグループが，南の公民館での講座にグループ全員で申し込みをしたため，その講座の定員いっぱいになってしまったという話を聞きました。

塚田委員　箱物というか，一般の整備は進んでいると思う。利用する人が偏っているというのは地域のコミュニティセンターをみても分かる。利用する人は徹底的に利用するが，関心がない人はまったく利用しないという，両極端な気がする。

山島委員　私はずっと東京に住んでいて，宇都宮に来たのが２年前なのでよくわからないが，利用する人が偏っているというのは当然の話だと思う。利用したい人ができないのは困るが，利用したくない人は別に困っていない。それを無理やり連れていってやらせるのが生涯教育なのだろうか。それは趣旨が違うと思う。

綱河副会長　ある程度施設整備は出来上がってきたと思うが，そこで行う生涯学習の講座について，まず市民が（その講座を）知らないというのが一番（問題）だと思う。知っている人は利用できるが，知らない人は利用できない。行政というのは営業しなくていい。広報手段が一番下手なのが行政ですね。例えば回覧板，ポスターなどで広報・周知・宣伝しているわけだが，これが市民にはなかなか伝わらない。いろいろな表現の仕方はあるが，こういう講座があれば受けたいと思っても，なかなか思っている人間のところまでいっていない部分があるのではないだろうか。そういうところをもうちょっと行政としてきめ細かく情報を提供すれば，もう一歩も二歩も市民の生涯学習に対する関心が高まるだろうし，活動も増えてくるのではないだろうか。

伊藤（昭）委員　講座は広報紙で知ることができるが，例えば中央生涯学習センターの市民大学などは，立派なパンフレットを作っている。それを銀行などに100部置いたとして，講座が終わった後，どれぐらいパンフレットが残ったかという統計をとってほしい。まったくなくなっていれば，結構配布されたといえる。ところが，ほとんど残ったとすればどうか。どういうところに配布したら市民に伝わるのかという，活用率の話になるが，勉強したい人に，的確にそういう情報が伝わっているかの統計をとらなければいけない。

綱河副会長　いいっぱなし，やりっぱなしじゃなくて，きちんと行政側として市民の税金を投入してやるわけだから，フォローして次の政策の参考にするべきですね。宇都宮はこれだけの政策・事業があるといっても，結果を分析せず前年と同じことをやって，同じ結果しかでていないということが往々にして多いのではないだろうか。ただ数字が多かった少なかっただけではなく，中身を正確に分析して次年の計画をたてるというのはきわめて重要。

(2) 宇都宮市の生涯学習の現状と課題について

《事務局説明》

本市における生涯学習の現状と課題について。生涯学習をめぐる背景として，生涯学習推進の考え方や，生涯学習に対する環境の変化がおこっており，本市では人間力向上について取組みをしている。

新しい教育基本法の改正の中で，生涯学習の理念が定められた。家庭教育も第10条に新たに規定され，社会教育については12条で，地方公共団体は社会教育の振興に努めなければならないと定められた。さらに，背景として「新しい時代を切り拓く生涯学習振興方策」について，具体的な方策として，一つは国民一人ひとりの学習意欲を促進，家庭の教育力向上，地域の教育力向上を唱っている。

基本的な課題として，これまでの生涯学習の環境づくりを進めてきた結果，個人の自己実現は定着してきている。しかし，これからは個人や地域の教育力向上，社会人としての人間力の向上といった，人づくりに向けた生涯学習・社会教育

を示していくという人づくりに向けた生涯学習，社会教育ということが求められると考える。

個別的な課題としては，それぞれの世代・子どもの育成，大人・高齢者についても，どのようにまちづくりをしていくのか，また社会の行政の対応。ニート・団塊の世代についても社会教育の側面からも対応を図るというのがある。

学びを通したまちづくり，メンバーの地域ぐるみの学びの支援ということで，まちづくりをしていく人たちをどうしたらいいか。さらに地域ぐるみの学びということで，地域・企業・行政それぞれがアレンジしながらやっていく関係作りも検討する必要があるのではないかということでまとめたところ。

これらを課題として，今後の推進計画を作っていくうえでの基本的な考え方や施策事業を考えていこうと考えている。

生涯学習の柱はどんなものがいいと思うか。付箋紙により各委員の意見を提出　⇒別添参照

廣瀬会長

生涯学習推進計画は，市役所が市民に対してする約束。これまでの推進計画の内容は推進体制の基盤整備，学習機会の提供でしたが，今回の市の提案をみるとかなり様相を異にしていて，人づくり，少子化対策でなく，人間をどうやって変えていくか，要するに無関心層からまちのことを考える層へということ。そして社会的な要請，社会的な問題（ニート・団塊の世代・再チャレンジ）そういった課題を解決すること，あるいはまちづくり，地域ぐるみの学びの支援ということがでてきますが，みなさんの書いたものをみてみると，市の提案したものと重なるところもある。

・学びと地域社会を結びつける
・まちづくりに関する学習
・学校の教育力の向上
・地域家庭の教育力
・人材・学校教育サポーターの養成
・親に代わる教育支援の担い手の育成
・受身の学びから自立活動に（学びを生かして社会参加）
・親学
・義務教育が終わるまでの親の支援
・やる気元気のある子を育てる
・人材の発掘・お父さん

などが出てきた。一つの流れは親学・地域・家庭教育というもの。

山島委員

中教審の報告を見ると，生涯学習の中にいろんなものを入れている。今回の市の計画もいろんなものが入っているが，旧来型の生涯学習には，家庭教育，地域力など今までは入っていなかった。ちょっと違和感がある。生涯学習という形でとらえようと思えばとらえられなくもないが，地域づくりというのは生涯学習としてくくる必要があるのだろうか。むしろ生涯学習課の範囲ではなく，教育委員

会の全体のテーマなのではないだろうか。生涯学習的なもので結論づけていくとずれてしまう。地域の活性化とか地域力とかの話は生涯学習だけなのか，生涯学習で全体を論じていいのかということを整理する必要があると思う。

廣瀬会長　これまでの生涯学習推進計画とは今回かなり違うテーマ設定をしているというのはこの点。地域づくりというのは，みんなでまちづくり課の所管事項だが，まちづくりというのは１つの部署でやるのではなく，ある政策の部分はみんまちでやるが，生涯学習課はむしろ，まちづくりを支える人をどうやって作っていくか。自治能力の部分を生涯学習課がやっていかなければならない。地域の子どもを支える教育力については，子どもは学校で育つのが基本だが，それを支える地域をどうやって作るかが生涯学習課の仕事である。

髙田委員　今モンスターペアレントという言葉が話題になっているが，学校の行事等に積極的に参加する保護者と，授業参観にもなかなか来られない保護者の二極化の傾向がある。生涯学習の中で義務教育が終わるまでの親の支援体制が出来たらと思っている。

生涯学習というとオールラウンドにいろいろな世代が含まれるわけだが，熟年の世代は既にいろいろなことで学んでいる人がたくさんいる。子育て世代の，仕事も持ち子どもをどう育てるか悩んでいる世代と，その予備軍であるこれから結婚してどういう社会を作っていこうかという世代に，宇都宮市はもっとポイントを絞り，焦点を当ててやっていただけるとありがたい。

また先日，うつのみやの花火大会の様子をとちぎテレビで放映していたが，若者たちが４年前の花火大会を実現したいと本気になってやっていた。このように地域を愛してやまない若者もたくさんいる。自分たちの地域のよさに気付いて魅力を発信できる，若者を支える生涯学習計画が出来たら素晴らしいと思う。

八代委員　小さいうちから隣近所と親しくならない傾向，それをよしとする傾向があり，子ども達も友達という関係の意識なく育っているという現状がある。そうなると，なかなか次につながる生涯学習は難しくなっていくのではないか。それをどうどうするのかとなれば，それには社会のあり方を直さなくてはならない。しかし，ここまで来てしまったものを簡単にもとに戻すことはできるのだろうか。

廣瀬会長　「親の問題」と「地域」の課題は生涯学習の基本に据えたほうがいいのではないかという提案をいただいた。これからどう考えていくかは社会教育の課題。

福田委員　学びの自己完結で終わるのでなく，その学びを誰かのために，地域のために，あるいは地域の課題に結び付けていくような施策をひとつ柱にしたらどうかと思います。資料 18 ページの市民アンケー

トの結果では，社会教育で力を入れて欲しいことは「地域住民の学習機会の拡大」，「（学びを）まちづくりに生かせる機会」と２割強の市民が答えており，その気持ちを取り入れていくことが，ある意味生涯学習の裾野を広げることにもなるし，逆に，まちづくりや地域住民の学習活動の内容にそれを行う側が学習を結び付けていくことで，新しい広がりがでてくると思う。

また，人づくりを考えたときに学習者同士，他人との交流の中で学び，発見をして，それがまちに広がっていく。交流からゆるやかに繋がっていくネットワークということを意識した，学習者同士の交流・ネットワーク，また学習者ではない人との交流も含めたネットワークがキーワードになると思う。

田辺委員　これまでの取組みを聞いていると学習のインフラ整備（講座とかを受ける人は受けるということで）。ある意味では受身の箱ものは出来ているが，これ以上同じような取り組みをやっても，受講する人は同じような人で（数は）増えないだろう。もっとも，もう少し周知をすれば増えるかもしれないが。

一方で生涯学習という意味はどういうことなのかわからなかったが，教育基本法の定義を読むと，生涯学習とは単に自己満足，自己の人格を磨き豊かな人生を送るということを超えて，学習成果を適切に活かすことができる，社会の実現が図られなければならない，ここのところが違うと思った。これは能動的にというか学んだことを活かして町の活性化をしようという，あるいは，学んだことを周りの人にサービスして世の中全体を明るくしていこうということを言っているのかなと受け止めた。

まちづくり推進機構などで活動しているが，ボランティア活動をやると，これまで付き合いがなかった，考え方もアイディアも違う人と付き合うことができ，一つの目的を達成するために活動している中で，自分の人間の幅も広がる。ですから，（生涯）学習センターに行って，講座を聞くというだけでは私は限度があると思う。講座で学ぶのは体系的な学問の知識なので，生きがい・働き甲斐という満足度は高まらないのではないだろうか。

そういう意味でボランティア活動をして，団塊の世代が退職後自分の人生をいかに豊かにするかということを考えると，受身ではなく行動による学び，そういった方向に，それを市民にこういったことをやりましょうと提案をして，その都度いいものがあればそれを入れるし，まずければ直していけばいいと思う。行政は失敗を認めたくないというところがあるが，トライ＆エラーでいいと思うので，そういうことをもっとやった方がいいと思う。

誰かが講座に応募するから自分もしようなど，主体性がないところが見受けられるので，主体的に活動するという部分をやれば，宇都宮市はもっともっとよくなるんじゃないかと思う。

廣瀬会長　主体形成は大事な教育の基本。個人のニーズと社会は切り離され

ているのではなく，ボランティアなど社会的な運動をしたから個人が成長したりする。役所などは切り離して考えがちだが，実は切り離されていない。

若度委員　生涯学習という言葉はとても広くて，それを宇都宮市の生涯学習に取り入れてしぼっていくと，ある程度の年代の人はコミュニティセンターなどの講座に出ている。私の母などはあまり地域に馴染む方ではなかったが，そういった講座に出るようになって 10 年になるが，その中で活動を膨らませていって，友人が出来，地域と多少関わり合うようになった。そういう面ではいいと思う。

それを知る機会というのが意外と少ないので，もう少しみんなに認識してもらう，そういう啓発・周知ですね。

あとは地域・家庭もそうだが，最終的には人間。親を教育するということの必要が，いろんなところで話をしていて感じることもある。難しいことじゃなくて，当たり前のことが当たり前に話が出来ればいいと思う。つまらない部分に悩んだり，時間をとられるのはよくない。常識的な考え方を身に着ける，そういうのはどこでやるんでしょうね。

廣瀬会長　やはり地域。例えば給食費を納めないと体裁悪いぞ，という（考えを共有した）地域をつくっておかないと，市教委がエネルギーを使ってしまうことになってしまう。

若度委員　そういうのは先生のやることでなく，地域の環境，そういうことを考えていかなければならない。

伊藤委員　生涯学習とか社会教育など難しいことはわからないが，実例としての地域のよさを話したい。戸祭コミュニティセンターでは「戸祭アカデミック」という小学校の子どもを持った母親を中心とした講座があり，戸祭小学校の親子 60 人が 1 年間勉強する。それが若いお母さんの教育。もう一つが「いきいき熟年学級」という，おじいちゃん・おばあちゃんの講座があって，これが歴史があり毎回すばらしい人が集まる。彼らが熟年学級を卒業したとき，地域に恩返しをしたいとコミュニティセンターに相談に来た。校長先生に相談した結果，学校パトロールをしてもらいたいという意見がでた。道路に出ると交通事故などの危険があるので学校の敷地内をパトロールすることになった。パトロール中，子どもに「何かあったらおじいちゃんおばあちゃんに言うように」と声をかけ，子どもも「ありがとうございます」というコミュニケーションが出来ている。今では口コミで会員が 60 人近くになり，２～４人でペアになり公民館に集合して腕章をつけ，学校が手薄になる１時から２時の間に学校内の敷地内をパトロールし，公民館に戻り日誌を書き反省をして帰る。このいきいきパトロールがすばらしい成果をあげている。

それから，もう一つはメイドインパソコン。冥土に行くのにパソ

コンが見れないと，というのでお年寄りにパソコン教室を開いた。お年寄りはパソコンを習いたいのだが，パソコンを教えてくれる人がいない。子どもに聞いてもそんなのわからないと言われてやってくれない。パソコンは15台しかないのだが，応募が30人来てしまった。そこで人選をしてやったが，みんな熱心で欠席者無し。卒業後，彼らはパソコン一式を購入した人もいる。その中にリーダーがいたので，さらにメンバーは，デジカメやiPodもリーダーに教えてもらいたいということで，グループを組み，お互いに会費を出し合って先生を招待してやっている。その方たちが，今では戸祭地区の広報誌づくりに協力している。メイドインパソコンがいかにすばらしかったかを実証として申し上げます。

塚田委員　親学というのは親が一生懸命勉強するということではなく，親が規範意識をもってほしいということだと思う。地域の教育力というのも，地域が大きな意味では常識を子ども達に教えるということが入っているので，両方ともコミュニティというかつながりのような気がする。その辺りのコミュニティというのが大切だと思う。

松江委員　子どもの教育は学校という部分がものすごく大きいので，学校に対する尊敬というか，学力というのは地域をあげて取り組むといいますが，それだけではなくて，先生に対する尊敬も出来なくなっているし，学校の先生にそぐわないという方も現実にはあると思う。

お父さんがなかなか（活動に）出てきてくださらない。しかし出てきてくださると，とても役に立つ。出てきてもらうためにはお父さんが働いている企業の協力が絶対に必要。企業にはほかにもお金を出してくれるのもいいと思うし，もちろん人が大事なんですが，地域が活動しやすい環境を作るとか，できることがいろいろあると思う。

最後に，生涯学習は単純な考え方として，個人が一生学び続け向上する気持ちを持てばいいのかなあ，と私は思っていたのですが，個人個人が向上心を持つことによって，地域全体が成熟した，安全なまちづくりというのも含めてなっていけばいいのかなと思っています。

廣瀬会長　≪まとめ≫

① 家庭・地域の教育力とか，地域のよさを支える人材とか，地域の課題解決，学びを通したまちづくりなど，これまでの生涯学習の推進計画とかなり様相が違う。これを生涯学習推進計画と呼んでいいのかどうかという問題があり，生涯学習というのは理念的な存在で，推進体制が整備されているとすれば，次にどういう名称の計画がいいのか，事務局内でもう一度つめて欲しい。

② （課題の）柱は作ってもらったのだが，もう少し焦点化して，社会の要請への対応など，もう少し市民の言葉に変換し，もう

少し響く言葉で工夫してほしい。

③ 生涯学習が市役所全体で行われている現状を踏まえたうえで，生涯学習課で何をするのかということを今日のみなさんのご意見から提案されてきたのではないか。

みなさま，お疲れ様でした。

（以上）

別　紙

（仮称）第３次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会出席者名簿

（平成 19 年 8 月 20 日）

No.	氏　名	該当号	備　　考
1	髙田　實	1	宇都宮市小学校長会 会長
2	櫛渕　澄江	1	宇都宮市地域婦人会連絡協議会 会長
3	塚田　栄一	1	宇都宮市子ども会連合会 会長
4	若度　哲久	1	宇都宮市ＰＴＡ連合会 会長
5	伊藤　誠	1	宇都宮市地域まちづくり協議会連絡会議 議長
6	松江　比佐子	1	チャイルドラインとちぎ 副理事長
7	◎　廣瀬　隆人	1	宇都宮大学 教授
8	○　綱河　秀二	1	市議会議員
9	山島　哲夫	1	宇都宮共和大学 教授
10	八代　圭二	2	ＮＨＫ文化センター宇都宮支社 支社長
11	田辺　勇治	2	東京ガス株式会社宇都宮支社 支社長
12	伊藤　昭一	3	公募委員
13	大塚　知子	3	公募委員
14	福田　有見子	3	公募委員

◎：会長，○：副会長

付箋紙により出し合った委員の意見

学ぶ楽しさ、
知る喜びを
子供時代に
知る。

学校の教育力の向上
(生徒・児童へのではなく
先生の教育力)

地域の教育(力)を
担う人材育成
(学校教育のサポーター
の育成)

学びを地域課題へ
結びつける。

・市民の自治能力の向上
・家庭地域の教育力

親に代る
家庭教育の担手
の育成

学習者同士の
交流機会の
創出

親子(PTAを主として)

① 読みの学びから実行による学び

② 学びを通した町づくり

親学

市民の生涯学習の向上

の意識の向上

親学

人材の発掘
特に（おとうさんたち）

地域の（学習力）
教育

地域に愛着を持つ
そのために地域を知る
ことが大切

○義務教育が終わる
までの親への支援
体制

やる気 元気の
あふるを育てるには？

・家庭（親・子）、地域社会の人 など、
全ての人が、協調できる、協調しなければ、生きていけない、という、人間社会の
重要性を、伝えていく。

インターネット
環境の問題は？